

1 μ Sv 検出に田城郁参議院議員らが「緊急要望」

守るべきは子どもたち

校庭表土除去で国の補助が決定！



高木義明文科相に『要望書』を手渡す福田昭夫代表代行(右)と谷博之参議院議員・田城郁参議院議員

栃木県那須塩原市や那須町の校庭 31 施設から 5 月中旬の測定で毎時 1 μ Sv 以上の放射線量が検出されたことを受け、民主党栃木県連(山岡賢次代表)福田昭夫代表代行と谷博之参議院議員、田城郁参議院議員は 20 日、高木文部科学相を訪ね『児童生徒の放射線被ばくを回避するための緊急要望書』を提出しました。『要望書』では、空間線量のほか土壌検査の徹底と情報公開、放射線量が 1 μ Sv 以上の土壌の表土除去などの対策や財政的支援などを求めました。

栃木県による 6 月 20 日の放射線量の再調査では、平均値で前回は上回る数値も計測されるなど、現在も放射能汚染は解消されていません。学校の子どもたちは、体育や昼休みの校庭活動が制限され、被ばくも懸念されます。

要望を受けた高木文科相は、これまで福島県に限っていた国の除去費用の負担を、隣県の栃木県でもおこなうと回答。その後、同栃木県連の石森久嗣幹事長からの問い合わせに、一次補正予算からの措置が決定という回答がありました。

子どもたちが元気に駆け回る姿を思い描き、安心して暮らせる社会づくりに向け田城郁議員らは活躍しています。JR 総連は「脱原発」を掲げ、子どもたちの未来を田城郁参議院議員とともに創造していきます。